

SABS Journal No. 85

発行日 2016年10月18日(火)

URL <http://www.sabsnpo.org>

このジャーナルはもともとバイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)内部向けのものでしたが、数年前から、少しでもバイオテクノロジーに、ご関心のありそうな方々に向けても配信しております。ご興味の無い方は返信して**配信不要の旨**をお知らせください。

前回も書きましたが、昨年急逝された奥山典生先生から筆者(檜山哲夫)が理事長をお引き受けするまで、この項は、先生が様々な分野にわたり、次から次へと溢れる蘊蓄を毎回披露されて居られました。その後出来るだけ先生のご遺志を継ぎ協会を続け発展させて行こうと定例会では会員の方々が毎回次々といろいろな方々のご専門の蘊蓄を傾けることで先生のご遺志を継ぎ、会員各位の親睦と勉強の一助となるよう努めて参りました。このジャーナルを読んでも下さる方々は現在数百名に上ります。ぜひ読者の中からも話題提供をして下さる方が出て頂けることを期待しています。このメールに返信して頂ければ結構です。ご感想、エッセイなどもお待ちしております。

1) 昨日・今日・明日

前回も書きましたが、毎年、前年より暑い夏が続き、温暖化はいよいよ本物になりつつあるという感を深くしていました。それでも10月に入るとさすがに急に秋めいてきて、今度は朝晩の気温の低さに中々体が追い付かずというところですが、皆さまご健勝のこととお察しいたします。

前回も書いたように、当協会はこの夏休みから横浜市大の川崎博史さんを中心に新しいシステム(OJSとPKP)を導入して、このメールマガジンや本会の目標の大きな一つである“医学と生物学”誌の再発行に利用しようと考えていることをお伝えしました。OJSとPKPはそれぞれOpen Journal SystemとPublic Knowledge Projectの略で、1996年にカナダで始まった活動です。University of British Columbiaで始まり、その後Simon Fraser Universityが加わりました。2000年代に入るとアメリカのStanford Universityも加わり、ソフトウェア開発もどんどん進んで発展を続け、現在世界中の数百に上る学術団体の刊行誌がこれに加わっているようです。

そこで、前回の定例会(第76回)の前に理事会を開き川崎さんに中心にシステムの勉強とこれまでの成果をお話して頂き今後について話し合いました。その結果、前号にも書いたように当協会でも再発行を目指している旧緒方研(財団法人緒方医学化学研究所)の発行していた“医学と

生物学”誌（平成 25 年（2013）に廃刊）を、あまり遠くない将来にこのシステムを使って再発行出来る見通しが立ったと考えています。皆さまのご支援ご投稿をお待ちして居ります。

-----これに関連して、次回の第 78 回定例会では、奥山先生と本協会（SABS）の立ち上げに関わり、今日まで運営を支えて来られた荒尾進介理事にお話し頂くこととなりました。荒尾氏は大学では獣医学を専攻し獣医師の資格をお持ちですが、永いこと診断薬メーカー（株）ヤトロン（現 LSI メディエンス）で臨床検査関係のお仕事をして来られ、奥山先生とはその関係で緒方研や SABS と関わって来られたと聞いています。SABS 設立の経緯と緒方医学化学研究所（緒方研）のこと、医学と生物学速報会発行の雑誌「医学と生物学」等など、現在本会の中で事情を最も良くご存じの方です。これからの SABS 活動に必須の情報の共有化を図りたいと考えています。また緒方研の創始者緒方富雄氏並びに氏の曾祖父緒方洪庵、適塾、門下生などなど生前の奥山先生が折にふれ話されて居られましたが、これらのお話しもして頂くことになっています。ご期待ください。

前回の第 76 回定例会（9 月 23 日）には、奥山先生の中学・高校の同窓生でもあった山口大学名誉教授畑中颯和先生に「“みどりの香り”の研究」第 3 部ということで、昨年来伺っていた植物の多彩な二次代謝のお話しの締めくくりをされました。先生の業績は実に膨大でこれまで様々な 2 次代謝経路を解明されて来られました。この定例会ではヒトの官能/心理・生理というお話とみどりの香りの害虫防御因子の他、蚊取り線香の殺虫成分ピレトリンや前回予定されていて時間ぎれとなったブテナントの Sex pheromone のお話も伺うことができました。Butenandt は性ホルモンの構造決定でノーベル化学賞を受賞したドイツの化学者ですが、畑中先生は親交があり、晩年の昆虫フェロモンの研究にはカイコの提供だけでなく、いろいろと貢献されたお話も伺いました。これまでスエーデンのノーベル財団での招待講演もされるなど、ノーベル賞に近いかもと思わせる素晴らしいお話でした。今年最初の SABS レポート No78（1/18/2016）で筆者は前年の大村博士のノーベル医学・生理学賞受賞について私見を述べたあと畑中先生のお話について上記のような感想を書いたあとこう付け加えました：「...ということで今年もバイオの分野で日本からまたノーベル賞が出ることを祈りたいと思います。」

筆者の祈りとは関係ないでしょうが、ご存じのように、今年のノーベル医学・生理学賞はまた日本の大隅良典博士に決まりました。筆者もバイオの世界に永年いながら、分野が違うことはいえ、生来の不勉強のため、博士の業績についてはこれまで全然知らなくてお恥ずかしい限りです。大隅博士のお名前は、1996 年頃に初めて知ったのですが、ご業績など何も勉強せず、講義でも「Apoptosis は細胞の良い死に方です」としか触れず、Autophagy など全く知りませんでした。今回あわてて多少勉強しましたが、本会でもいざれどなたかにお話し頂ければと思います。一方、大隅博士のコメントには我が国の基礎研究にとって非常に大切な本当に憂慮すべき問題が提起されています。これは筆者も現役時代から感じていたことですが、他のノーベル賞受賞者のお話も含めて筆者の印象に残ったいくつかをご紹介します。

NHK NEWS WEB 10月12日より：

http://www3.nhk.or.jp/news/html/20161012/k10010727171000.html?utm_int=nsearch_contents_search-items_001

ことしのノーベル医学・生理学賞の受賞が決まった東京工業大学栄誉教授の大隅良典さんは、12日、自民党の文部科学関係の合同部会に招かれ、講演しました。この中で、大隅さんは、「教員が非常に忙しく、なかなか研究時間が無いというえ、博士課程の進学者が減り、大学の研究環境が劣化している。このままいくと日本の大学が空洞化し、ノーベル賞受賞者が、10年後、20年後には、出なくなると思う」と述べ、日本の大学における研究環境の厳しさを訴えました。そのうえで大隅さんは、「いま学生は貧しくなっていて、支援なしに研究にまい進することは難しい。大学院生の生活を支援し、そういう人が自由に育っていく社会を実現してほしい」と述べました。

講演のあと、大隅さんは、記者団に対し、「議員の方に少しでも日本の大学の現状、特に自然科学の基礎研究者がどのような思いをしているのかを理解していただき、少しでも影響があればうれしいです」と述べました。

NHK クローズアップ現代ホームページより

<http://www.nhk.or.jp/gendai/articles/3870/1.html>

2016年 ノーベル医学・生理学賞 大隅良典さん：「研究って、寄ってたかってはやりのことを競争して、誰が1番かということ競争するような側面が強調される面があるんですけど、私は、人がやらないことをあえて選ぼうという、そんなことではなくて、素直に誰もやってないことの方がよっぽど新しいことが見つかるっていうのは、これはもう絶対間違いのない真理だと思っていて、そういうことがもう少し認められて。ただ、初めてやる仕事にはなかなか蓄積もありませんから、認められるまでに時間がかかる。その不安は、みんなあると思うんですね。だけど、やっぱり誰もやってないことをやってみようというのが、私は科学をする心として最も大事なことだと思っていて、はやりのはやりなので、たくさんの方が注目している。そういうところよりは、そういうところでないところに自分の問題を見つけて、全部が全部そういう人ばかりでなくていいですけど、そういう人が認められるのが、科学にとってはとても大事なんだと思っています。」

2015年 ノーベル物理学賞 梶田隆章さん：「80年代後半から90年代。日本が元気だった頃に、みなさんが伸び伸びと研究をしたその成果が出てるんじゃないかと思う。多くの基礎科学研究というのは、そんな短期で、明確な答えが出るものではないので、そういう時間がかかる研究、それを許すような社会が望ましい。」

2010年 ノーベル化学賞 根岸英一さん：「今はえらい勢いでどんどん、ノーベル賞を取ってますけども、これがいつまで続くかはわかりませんね。今のノーベル賞の波はひょっとしたら、30年40年前に発しているものじゃないかな。学会の中でもそういう将来を見

通したような研究体制をプロモートするというか、しっかりやっていく努力も必要だと思います。」

2012年 ノーベル医学・生理学賞 山中伸弥さん：

「今日本の科学というのは、すぐに役に立つものにすごく目がいって、基礎研究が少し軽視される傾向があると危惧している。科学というのは真実を明らかにすることが本来の意味でして、その結果役に立つと。どちらかという二次的なものなんですね。根本は真理を追究する。そこからブレイクスルーが生まれる。これからもそういった基礎研究を大切にして頂きたいなと思います。」

＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

2) 第77回定例会のおしらせ。

バイオテクノロジー標準化支援協会 第77回 定例会

日時： 2016年10月28日(金) 14時00分 - 16時00分

場所： 八雲クラブ（首都大学東京同窓会）

演題： 「SABS 設立の経緯と緒方医学化学研究所、など」

演者： 本会理事 荒尾進介さん

参加費：無料

八雲クラブへの道順：

渋谷駅から井の頭通りの坂を東急ハンズ目指して上り、ハンズ建物を過ぎ交差点角を右に回って直ぐまた右に曲がるとハンズ裏搬入口になります。その隣の建物がニュー渋谷コーポラスです。入口奥のエレベーターで10階に上がり直ぐ右隣です(添付地図参照、赤丸印)。



＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

友人同士誘い合わせてご出席ください。出席するのが面倒な方はメールでご意見をお寄せください。お待ちしております。またぜひ「昨日・今日・明日」にもご投稿ください。内容・字数は自由です。

また話題提供も大歓迎です。時間は2時間程度ですが短くても長くても（この場合は2回以上に分けますが）また内容も自由です。ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。

＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

ホームページ <<http://www.sabsnpo.org>> に e-library のリストがあります。会員の方はその中からご希望のものをご指摘ください。

① 配信停止・中止希望の方、② 配信先等、登録情報変更希望の方、③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録を希望される方は、このメールに返信して、その旨お知らせください。こちらよりご連絡差し上げます。

ウェブサイトに関するご意見もぜひお寄せください。

バイオテクノロジー標準化支援協会 NPO

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

E-mail : sabs.elibraly.i@gmail.com

URL : <http://www.sabsnpo.org>.